

Bonjour

ボンジュール!!

2014年
10月16日号

Vol.186



今蘇るあの記憶、ブラックマンデー……。

● 2014世界経済成長率3.3%に減速

足元、世界的に株式市場が下落、また円高も進み、市場に波紋が広がっています。

その背景の1つに国際通貨基金(IMF)が今月7日発表した世界経済見通しの下方修正があります。

IMFは、2014年の世界全体の実質国内総生産(GDP)増加率を7月時点の予想から0.1ポイント引下げ3.3%とし、2015年の予想も同0.2ポイント引下げ、3.8%としました。

IMFは、地政学リスクをめぐる不透明感などにも懸念を示し「世界経済を取り巻く環境は7月の前回予想時よりもやや悪化している」と指摘していました。

● 足並みが揃わないG20

今年2月に開かれた20カ国・地域財務相・中央銀行総裁会議(G20)。

世界経済の成長率を「5年で2%以上」底上げし、2兆ドル以上の需要拡大を目指すことが採択されたことは記憶に新しいところですが、今月9日～10日に開催されたG20では議論が噛み合わず、世界経済の下振れに対し明確な政策協調はなされませんでした。

世界経済の成長底上げは、経常黒字国の責務だとし、暗にドイツに財政出動を要求する米国側と財政出動には極めて慎重姿勢を貫くドイツ……。

あの日の記憶が蘇ります。

1987年10月19日月曜日、ニューヨーク株式市場を皮切りに世界の株式市場に激震が走った史上最大規模の株価大暴落ブラックマンデー。

翌日、日経平均株価は3,836円下落しました。あの時も主要各国の不協和音が発端の1つだったと語られ、ドイツが協調を破って単独で利上げを決行したことが引き金になったといわれています。

● エボラ出血熱も脅威

また、西アフリカで発症したエボラ出血熱の感染者数が加速的に増えていることも世界的な懸念材料です。

世界経済に及ぼす影響も想定されるなか、医療最先端国である米国内で国内感染の事例が報告された事は衝撃であり、気懸りです。

大荒れ模様の10月、米国が量的金融緩和(QE)を終了するタイミングとも重なり、株式市場の調整には注意が必要です。

主要各国が金融政策や景気刺激策をはじめ足取りを揃えて協調することが、今求められています。